

平成30年4月20日

浜田市議会議長 川神裕司様

議員名 澁谷 幹 雄



## 調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成30年4月12日(木)～4月13日(金)

2. 視察先と内容

全国市町村国際文化研修所(JIAM)  
(滋賀県・大津市)

第1回市町村議員特別セミナー

講師 兵庫県豊岡市長

中貝 宗治

日本インバウンド連合会理事長

中村 好明

立教大学観光学部教授

東 徹

3. 調査経費 21,500 円

4. 調査研究活動の概要

別紙



H30年4月12日～4月13日  
澁谷 幹雄

研修先 全国市町村国際文化研修所(JIAM・滋賀県大津市)

### 豊岡市のまちづくり戦略

中貝 宗治一兵庫県豊岡市長

- 地方創生は、人口減少対策
- 高校卒業生の40%しか戻ってこない→地方は貧しくつまらない、閉鎖的で活躍の場がない
- 若い人の絶対数が少ないため、これから人口は減り続ける
- 高校生や若い女性が、帰って来たくなくなるようなまちをつくる→地方で暮らす価値を創造する
- 地域の豊かさや地域のポテンシャルをアツクさせる→宿泊とかぼんに特化
- 「飛んでるローカル豊岡」→外国人宿泊者 45,000千人→4月～7月&9月10月はイベント委で宿泊者を増やすー観光イノベーション
- ローカル&グローバルシティをめざす→ローカルであることが強み
- 地域の稼ぐ力を引き出す
- 情報発信ー知られなければ存在していないのと同じ、芝居小屋の復活「永楽座」
- 城崎国際アートセンター→無料で芸術家や演奏団体に貸し出すー成果の発表が条件  
芸術監督ー平田オリザ
- 副市長を全国公募ー監督と選手はいる、コーチがほしい、数値目標を明確にする、コスト意識
- コウトリが住めるまちにする「コウトリの野生復帰」ー202羽に、環境を取り戻す  
→米は「コウトリ育むお米」として海外へ販売

### インバウンドが切り開く地域の未来

中村 好明ー日本インバウンド連合会理事長

- 「米仕事」ー自分の食い扶持を賄うための経済活動→現在の日本人米仕事だけの人が多い
- 「花仕事」ー社会への奉仕→自分のことに加え社会全体のこと考えるー公共哲学
- 米と花で権→若者を醸す
- 未来を創る五つの「き」→①意識②知識③勇気ー実行④元気ー共同⑤景色ーヴィジョン
- まちの活性化ー若者・馬鹿者・よそ者+切れ者(専門家)・本物
- 国際関係人ー地域のファンを国内外につくる
- 観光立国とは、哲学立国。わか町を知る。あるものを磨く。権利と義務のバランス
- 指宿の玉手箱ー電車で手を振る事業→外国人自分たちを歓迎してくれている
- 戦略とは、既に起こっている未来を体系的に探すことードロッパー
- ヴィジョンからすべてが始まる

## 観光と地域振興の在り方

東徹一立教大学観光学部教授

- 観光—光をみる→住んで良し、訪れて良しの地域づくり—市民が主役
- 観光の魅力—地域の多様性と資源の偏在—旅行を伴う地産地消
- 今ここにいるから、味わえるもの、地域のめぐみ、出会い
- 今だけ、「ここだけ、あなただけの価値—観光の極意。もてなし
- まちづくりを市民がみんなで頑張る—地域の誇りを来てくれた人と共有
- にぎわい、地域の誇り、宝物を分かち合う仕組みをつくる—お金をまわす仕組み
- マーケティングと地域のブランド力の重視、接遇能力の向上
- 市民が自分たちで取り組む→丸投げはダメ
- アニメの聖地—意味のわかっている人だけが楽しめる
- 住民の満足、誇り、愛着を生み出すことこそ、優先課題
- 交流を盛んにする—他者の目を意識する、どう見られたいか
- 地域の活力につなげること、消費の活発化、運動の活発化—住民の誇りと愛着へ
- 来るときはゲスト、帰るときはファンに→さらに地域のサポーターに
- 交流人口から、縁(ゆかり)人口へ—住民が主体的に取り組めるかが、鍵

## 日本のお菓子には祈りが込められている

田丸みゆき—笹屋伊織女将、京都観光おもてなし大使

- 京都人のおもてなし—感謝とお見送り
- 京菓子→皇室、神社仏閣、茶道の発祥地、最高級原材料の宝庫—丹波大納言小豆・阿波の和三盆・吉野葛・寒天・近江米
- 五感の芸術—視覚、臭覚、触覚、味覚、聴覚(菓銘)
- 祈り—子供の成長と子孫繁栄を願う、お米に神が宿る、小豆は厄除け
- おもてなしとは、お役立ち—お客様は京都のお客様→決してケチにならない
- クレームにお応えする←クレーム処理ではない

## 所見

中貝豊岡市長の穏やかな語り口の中に、トップリーダーに必要なのは、信念であり、哲学であり、明確なヴィジョンであることが、改めて思い知らされた。豊岡市は、アーティストにもコウノトリにも愛される地方創生の注目都市。どこかの市のような、元気なまちを作ると言った、ふわっとした、漠然としたイメージを示すだけで、4年間毎年400億円の税金を使い続けて、ほとんどなんの成果も出ていない自治体とは大きな違い。固定費を無視し、職員をどんどん採用して組織を肥大化させ、住民福祉の増進も他市との横並びが精一杯、毎年800人を超える加速度的な人口減少に対して、何らチャレンジが行われていない。次から次に起こる不祥事に対する対応もスピード感がなく、先送りばかり。議員からの提案や指摘も無視。…… そういう自治体に対して、議員も覚悟をもって望まなければならない事が良く分かった、研修だった。